

特別企画展等

美しきアジアの玉手箱

シアトル美術館所蔵 日本・東洋美術名品展

会期：平成22年5月23日(日)―7月19日(月・祝)

会場：特別展示室A



▲ポスター-B2



▲会場風景

内容

アメリカ屈指の美術館、シアトル美術館の日本・東洋美術コレクションから98件の名品を精選した展覧会。俵屋宗達と本阿弥光悦のコラボレーション作品「鹿下絵和歌巻」は、後半の約9メートルが同館に所蔵されており、それを全面巻き替えなしで一挙公開した。また、京都・龍安寺の方丈を飾っていた襖絵で、福岡の炭鋺王・伊藤伝右衛門の手にも渡ったことのある「囲碁図」や、強烈な意匠性を見せる屏風「烏図」など金碧画の大作など、日本に残っていれば国宝・重文級の古美術の逸品が賑やかに展示された。

出品点数 98件

関連事業

▶ 記念講演会

「シアトル美術館 日本・東洋美術コレクションの魅力」

日時：平成22年5月23日(日) 午後2時～3時30分

講師：白原由起子氏(シアトル美術館ゲストキュレーター／根津美術館学芸課長)

会場：講堂

聴講者数：120人

※本講演会は「第2回福岡ミュージアムウィーク」の事業としても開催した。

「帰ってきた伊藤伝右衛門の襖絵―シアトル美術館の桃山絵画―」

日時：平成22年6月20日(日) 午後2時～3時30分

講師：渡邊雄二(福岡市美術館学芸課長)

会場：講堂

聴講者数：180人

主催等

主催：福岡市美術館／読売新聞西部本社／シアトル美術館／NHK福岡放送局

後援：外務省／文化庁／アメリカ大使館／(財)福岡市文化芸術振興財団

協賛：光村印刷

協力：全日空／日本貨物航空／STARBUCKS COFFEE

観覧料

一般・・・1,000円(800円)

高大生・・・800円(600円)

小中生・・・500円(300円)

※()内は前売料金および20名以上の団体、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、シルバー手帳提示者の料金。

開催日数 50日

観覧者数 24,741人

印刷物

ポスター(B1、B2：3種、B3)

チラシ2種(A4、A3二つ折り)

図録(A4変形・238頁＋英文12頁)

関連記事

p.15を参照。



▲図録

シャガール—ロシア・アヴァンギャルドとの出会い

交錯する夢と前衛

会期：平成22年10月23日(土)―平成23年1月10日(月・祝)

会場：特別展示室A



▲ポスター-B2



▲会場風景

内容

世界に名高いパリのポンピドー・センターのコレクションから、最高峰のシャガール作品を選びすぐって展示し、画家の人生を追うとともに、同時代に活躍したロシア前衛芸術の巨匠の作品も出品し、それらに対比させた展覧会。このことを通じ、マルク・シャガールにおける故郷ロシアの存在を再認識し、この画家の新たな魅力を提示することが試みられた。

出品点数 118点

関連事業

▶記念講演会

「シャガールとロシア・アヴァンギャルドとの対話—平行と対立」

日時：平成22年10月23日(土) 午後2時～4時
 講師：アンゲラ・ランプ氏(ポンピドー・センター学芸員、本展監修)
 会場：講堂
 聴講者数：200人

「シャガールと音楽」

日時：平成22年11月13日(土) 午後2時～4時
 講師：伊東信宏氏(大阪大学教授、音楽学)
 会場：講堂
 聴講者数：131人

主催等

主催：福岡市美術館／ポンピドー・センター／朝日新聞社／九州朝日放送
 特別協賛：日本生命保険相互会社
 協賛：DNP大日本印刷
 協力：みずほ銀行／エールフランス航空／日本通運
 後援：外務省／文化庁／フランス大使館／ロシア連邦大使館／ロシア連邦文化協力庁／福岡県／福岡県教育委員会／(財)福岡市文化芸術振興財団／JR九州／西日本鉄道／(財)福岡文化財団／天神エフエム／FM FUKUOKA／cross fm／LOVE FM／(社)日本自動車連盟福岡支部／(社)福岡市タクシー協会／福岡市ホテル旅館協会／九州日仏学館／福岡EU協会

観覧料

一般・・・1,300円(1,100円) ※()内は前売料金および20名以上の団体、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、シルバー手帳提示者の料金
 高大生・・・1,000円(800円)
 小中生・・・600円(400円)

開催日数 62日

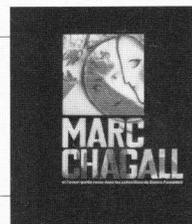
観覧者数 68,660人

印刷物

ポスター(B1、B2、B3)
 チラシ(A3二つ折り)
 図録(A4変形・197頁)

関連記事

p.16を参照。



▲図録

関連事業

▶コンサート

福岡ハイドン弦楽四重奏団 クリスマス・プロムナードコンサート

日時：平成22年12月19日(日) 午後2時～3時10分

会場：講堂

協力：福岡文化財団

参加者数：204人

▶映画上映会

ドキュメンタリー映画「シャガール：ロシアとロバとその他のものに」(2003年/フランス/52分/ビデオ作品)

監督：フランソワ・レヴィ・クエンツ

出演：マルク・シャガール、メレット・マイヤー・グラベル、ピエール・シュナイダー

上映日時：平成22年11月23日(火・祝)～28日(日) 午後1時30分～2時30分、3時30分～4時30分の2回

平成22年12月23日(木・祝)～26日(日) 午前11時～12時、午後2時～3時、午後5時～6時の3回

入場者数：	1回目	2回目	3回目
11月23日	78	33	
11月24日	55	10	
11月25日	47	25	
11月26日	20	25	
11月27日	40	41	
11月28日	46	48	
12月23日	13	45	33
12月24日	5	23	21
12月25日	16	46	36
12月26日	20	50	30

(単位は人)

第45回福岡市美術展

会期：平成23年2月22日(火)―3月6日(日)
 前期：平成23年2月22日(火)―2月27日(日) (洋画、彫刻、工芸)
 後期：平成23年3月1日(火)―3月6日(日) (日本画、書、写真、デザイン)
 会場：特別展示室A・B、市民ギャラリーA・B・C・D



▲ポスターB2



▲ギャラリートーク

内容

美術の各分野における市民の創造活動を促進し、その成果の発表と鑑賞の機会を提供することにより、市民の美術活動の振興を図ることを目的に毎年開催している公募展。今回は、洋画等7部門で、1,136人(1,319点)の応募があり、内667人(669点)が入選。このうち、市長賞など入賞作品は64点であった。

展示点数 669点

関連事業

▶入賞・入選者発表

期 日：平成23年2月15日(火)
 場 所：1階ロビー

▶表彰式

期 日：平成23年2月27日(日)
 会 場：講堂
 各 賞：福岡市美術展特別賞1点、福岡市長賞7点、福岡市議会議長賞2点、福岡市教育委員会賞・福岡県美術協会賞・福岡市美術連盟賞・福岡文化連盟賞・福岡市文化芸術振興財団賞各1点、西日本新聞社賞3点、福岡県美術協会奨励賞2点、福岡市美術連盟奨励賞2点、奨励賞42点

▶ギャラリートーク

前 期：平成23年2月27日(日) 午後3時より
 後 期：平成23年3月6日(日) 午後3時より

主催等

主 催：福岡市／福岡市教育委員会／福岡市美術展運営委員会
 後 援：福岡県／(社)福岡県美術協会／福岡文化連盟／(財)福岡市文化芸術振興財団／西日本新聞社／福岡市美術連盟

観覧料

一般・・・400円 高大生・・・300円 中学生以下無料
 ※障がい者手帳所持者は無料

開催日数 12日

観覧者数 5,712人

印刷物

ポスター(B2:2種)
 開催要項(A3二つ折り)
 図録(A4変形・47頁)

関連記事

p.17を参照



▲図録

出品・入賞・入選状況

部門	出品合計(応募)		展示			
	人員(人)	点数(点)	入賞・入選 人員(人)	入賞・入選 点数(点)	招待 人員(人)	招待 点数(点)
日本画	30	34	30	30	5	35
洋画	289	350	176	177	6	183
彫刻	23	23	17	17	4	21
工芸	93	108	52	52	5	57
書	251	255	157	157	4	161
写真	340	436	182	182	6	188
デザイン	110	113	53	54	5	59
合計	1,136	1,319	667	669	35	704

※招待点数は審査員出品を含む。

常設展

■近現代美術

近現代美術室

世界・日本・九州の美術：20世紀から21世紀へ

会期：平成22年5月18日(火)―平成23年5月15日(日)

日本近代の洋画、シュルレアリスム、ポップアートなど、主に20世紀に登場したさまざまな美術動向を代表する国内外の作品約55点を、時代別、傾向別にわかりやすく展示。

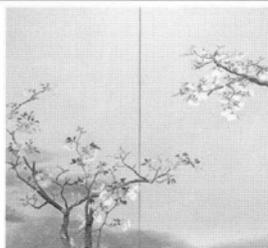
1. ラファエル・コランと近代日本の洋画
ラファエル・コラン、黒田清輝、岡田三郎助、吉田博など
2. 20世紀前半の新たな展開
モーリス・ユトリロ、ジョルジュ・ルオー、佐伯祐三、児島善三郎、三岸好太郎など
3. 20世紀後半、不安と絶望からの出発
ジョン・ミロ、マルク・シャガール、ポール・デルヴォー、田部光子など
4. 存在と物質
アンディ・ウォーホル、イヴ・クライン、白髪一雄、菊畑茂久馬など
5. 現代の「絵画」
ジャン＝ミシェル・バスキア、シグマール・ボルケ、ジュリアン・オピエ、横尾忠則、やなぎみわなど

日本画工芸室

日本美術院の画家たち

会期：平成22年3月30日(火)―5月9日(日)

岡倉天心の指導のもと、新しい日本画を模索すべく1898(明治31)年に創設された日本美術院。本展では、横山大観《朧月》、富田溪仙《御室の桜》など美術院に集った画家たちの個性あふれる作品8点を紹介した。



富田溪仙《御室の桜》(部分)1933年▶

清塚紀子展

会期：平成22年5月18日(火)―7月19日(月・祝)

鉛箔にエッチングを施したり、電器部品を貼り付けるなどして、「版画」の概念を拡大させた作品を制作する清塚紀子(1940年生まれ)の作品19点を展示した。作品はすべて西本コレクションより。

清雅―画中の理想郷

会期：平成22年7月21日(水)―9月5日(日)

不老長寿の仙境や神話世界の楽園の伝説は、古来から人々を魅了し、芸術の題材となってきた。本展では、理想の風景を描いた洋画・日本画を特集し鈴木亜夫《牧神の午後》、富岡鉄斎《仙境図》など16点を展示した。

コレクションミックス

会期：平成22年9月7日(火)―10月31日(日)

ふだんは古美術と近現代美術という区分ごとに展示されている当館のコレクションを、テーマに基づき一室に展示する試み。「つれづれなぐさむもの」をテーマに、近現代美術から13点、古美術から5点の計18点を展示した。



吉田博《金魚すくい》1928年▲

「シャガール―ロシア・アヴァンギャルドとの出会い」展関連企画 時代で見る美術II―1910s

会期：平成22年11月2日(火)―12月26日(日)

所蔵品を年代で区切って見ることにより、時代と表現について考える特集展示の第2弾。1910年代を特集。カンディンスキー、山崎朝雲など、同時に展示されることがまれな作家の作品が、同時代であることを共通点として展示。同時期に開催中だった「シャガール―ロシアアヴァンギャルドとの出会い」展との時代的な関連もはかった。所蔵品27点、寄託品4点を展示。

田崎広助展

会期：平成23年1月5日(水)―3月27日(日)

八女郡出身で、文化勲章受章者でもある洋画家・田崎広助(1898-1984)の作品を展示した。風景に分け入り、画室の小さなものに注がれる彼のまなざしには、どこか暖かいユーモアが漂う。会期半ばで紙媒体の作品を3点ずつ入れ替え、計19点の作品を展示した。

小作品室

新収蔵作品展

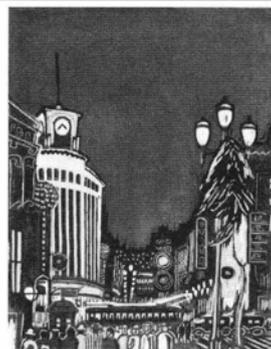
会期：平成22年3月30日(火)―5月9日(日)

平成21年度に福岡市美術館に御寄贈頂いた近現代美術作品12点を展示した。郷土の物故作家や全国的に活動する現代作家によって制作されたこれらの作品は、絵画から立体まで、素材も作風もさまざまである。幅広いコレクションの一端に触れて頂くことを目指した。

藤森静雄の版画

会期：平成22年5月18日(火)―7月19日(月・祝)

福岡県久留米市生まれの藤森静雄(1891-1943)は、大正期、東京美術学校在学中に恩地孝四郎・田中恭吉と詩と版画の同人誌『月映』を刊行し、版画の制作を始めた。以後、大正から昭和にかけて日本の創作版画界を担う中心的作家の一人として活躍。本展では、《大東京十二景の内・五月・夜の銀座(京橋区)》など、素朴な詩情を特色とする藤森静雄の版画作品32点を紹介した。



藤森静雄《大東京十二景の内 五月 夜の銀座(京橋区)》1933年

長谷川伝次郎の写真展

会期：平成22年7月21日(水)―9月5日(日)

写真家・旅行家の長谷川伝次郎(1894-1976)は、インドを中心にアジアを旅して数多くの写真を撮り、国内では奈良、京都の仏教美術の名品をカメラに収めた。彼の活動を示す貴重な作品群25点を展示。

藤野一友展

会期：平成22年9月7日(火)―10月31日(日)

藤野一友(1928-1980)は超現実主義的描法によりエロティックで幻想的な世界を追求した画家。本展では油彩画の代表作ほか、作品を生み出すまでの思考の跡が伺えるスケッチブックなどの資料も展示することで、その画業を振り返った。油彩27点(企画展示室)、水彩・素描29点(小作品室)を展示。

「シャガール—ロシア・アヴァンギャルドとの出会い」展関連企画

アレクサンドル・ロトチェンコの写真展

会期：平成22年11月2日(火)—12月26日(日)

「シャガール—ロシア・アヴァンギャルドとの出会い」展にちなみ、ロシア構成主義の作家、アレクサンドル・ロトチェンコ(1891-1956)の写真作品計30点を展示した。彼の作品では、空間をある角度から切り取るという写真の特性が最大限に生かされ、斬新な表現に結び付いている。



アレクサンドル・ロトチェンコ
《トランペットを吹くピオネール》1930年▶

シリーズ美術の技法Ⅲ 油彩画の修復

会期：平成23年1月5日(水)—3月27日(日)

美術品を文化財として後世に伝えるために欠かせない「修復」。所蔵品の油彩画、光安浩行《初夏》(1937年)の2009(平成21)年度の修復過程をパネル等で展示し、美術品保護に重要な役割を果たす「修復」について紹介。作品は5点を展示。

企画展示室

木下晋展(西本コレクション)

会期：平成22年3月30日(火)—5月9日(日)

鉛筆による迫真的な細密描法により、モデルの姿だけでなくその内面をも描き出しているかのような画風を特徴とする木下晋(1947年生まれ)の代表作17点を展示。作品はすべて西本コレクションより。

海をめぐるイメージ

会期：平成22年5月18日(火)—7月19日(月・祝)

季節や時間により多様な表情を見せる海は、画家たちの創作意欲を刺激し、想像力の源泉ともなってきた。本展では、稗田一穂《海の詩》、麻田鷹司《宗像杜沖島》といった日本画からロイ・リキテンシュタイン《雲のある海景》のような現代絵画まで、海を題材とした作品16点を所蔵品から特集展示した。

夏休み子ども美術館2010 子どもギャラリー

「ここはどこ?〜アートで行こう・ふしぎの旅〜」

会期：平成22年7月21日(水)—9月5日(日)

「旅」をテーマに、風景や景観をとらえた近現代の美術作品を合計15点展示した。それらの作品をたどる過程を架空の「旅」に見立て、来場者に親しみやすく、かつじっくりと鑑賞してもらえるように、リーフレットを作成、配布した。



吉田博《スフィンクス》1925年▲

藤野一友展

会期：平成22年9月7日(火)—10月31日(日)

小作品室を参照。

「シャガール—ロシア・アヴァンギャルドとの出会い」展関連企画

シャガールの版画

会期：平成22年11月2日(火)—12月26日(日)

版画家としても多くの名作を生んだマルク・シャガール(1887-1986)。「シャガール—ロシア・アヴァンギャルドとの出会い」展にちなみ、福岡市美術館が所蔵するこの画家の版画作品を67点展示。

■ 古美術

古美術企画展示室

田中丸コレクション—コーナー展示—

会期：平成22年3月30日(火)—12月26日(日)

九州の主要な窯を網羅した近世陶器で構成される田中丸コレクションから、代表的な作品約20点を展示。唐津、高取、上野、八代、薩摩、現川といったバラエティ豊かな九州古陶の世界を紹介。

新収蔵作品展

会期：平成22年3月30日(火)—5月9日(日)

ビルマ(現ミャンマー)で7~18世紀に制作された博伝や、福岡を代表する文化人・内本浩亮氏(1885-1977)旧蔵の茶道具など、平成21年(2009年)度に福岡市美術館へ寄贈された古美術作品79件を公開。



転法輪印仏陀坐像 ミャンマー 7-9世紀▶

シアトル美術館展関連企画 アジアの美

会期：平成22年5月15日(土)—7月11日(日)

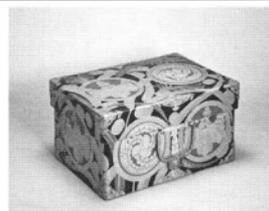
「シアトル美術館所蔵 日本・東洋美術名品展」の出品作品は、日本、中国、韓国、ベトナム、タイなどの美術からなるが、これらは当館の展示・収集活動と重なっている。両コレクションを対比することで、さらにシアトル展を楽しめるように所蔵品を松永記念館室(第1会場)に13点、古美術企画展示室(第2会場)に32点を展示した。

漆芸の極み—蒔絵

会期：平成22年7月13日(火)—9月12日(日)

蒔絵は、様々な器物に漆の下地を施し、金銀の粉などを蒔きつけて装飾する、わが国を代表する漆芸である。本展では、黒田家伝来の大名道具を中心に、当館に所蔵・寄託される蒔絵の名品27件を展示。

* 藤巴桐紋薄文蒔絵扶箱 江戸時代▶



仙厓展「仙厓さんとおともだち」

会期：平成22年9月14日(火)—11月7日(日)

仙厓は聖福寺の禅僧であったが、江戸時代の博多のさまざまな人々と交遊があり、同じ僧ばかりではなく、学者や武士、商人、詩人、俳人、画家など多彩な顔ぶれであった。仙厓と交遊があった人々に関わる書画25点を展示した。



斎藤秋圃画・仙厓義梵賛 惠比寿図 江戸時代▲